

# 緑陰

「緑陰」題字  
本庄第一高等学校 本元彩乃

第23号  
令和5年3月31日発行

一般社団法人  
埼玉県私立中学高等学校協会  
〒330-0063  
埼玉県さいたま市浦和区  
高砂4丁目13番20  
電話 048-863-2110  
HP  
www.saitamashigaku.com

## 2023年、年頭の所感

一般社団法人 埼玉県私立中学高等学校協会会長 青木 徹

AIやロボット、情報通信の急激な発展により社会が、世界が激変し、身近なところでも、コロナ下での学校における学び方や学ぶ内容が大きく変化しつつあります。また、世界の一地域での状況の変化やでき事によって、世界の多くの地域が健康的な、また経済的な影響を受けるなど、グローバル化が急速に進んでいます。

このように劇的な社会の変化に伴い、文部科学省は時代の変化に対応した学習指導要領を「何を学ぶか」に加え「どう学ぶのか」「どのようなスキルを身に付けるのか」をより明確にし、中学校は2021年から、高等学校は2022年から施行しました。さらに2021年1月に生徒の可能性を最大に引き出すために「個別最適な学び」と「協働的な学び」を軸とした「令和の日本型教育」を公表しました。

ところで、英オックスフォード大学のオズボーン教授は2013年に「未来の雇用」という論文の中で2050年には今ある職業の半分以上がなくなり、AI、ロボットが行うようになる」と論じています。その後、2017年には「未来の雇用のスキル」という論文の中で2030年に必要な学力・スキルを発表しました。その論文での第

一位が「戦略的学習力」、第二位が「心理学」、以下、指導力、社会的洞察力、社会学・人類学、教育学、協調性、獨創性、発想の豊かさ、アクティブラーニングと続きます。

「戦略的学習力」とは「新しいことを学ぶとき、状況に応じて自分に最適な学習法を創り、見つけ、実践する力」です。「心理学」とは心理学的素養を基にした人間関係力です。

この学力、知識、スキルはAI、ロボットの不得意の分野です。これらの学力、スキルを身に付けるには学校で学ぶ幅広い知識と言語能力や計算能力などの基盤となる学力が必要です。

また、文部科学省が大学共通テストに2025年度入学者から「情報」を加えることにしました。この模擬問題を見るとそれなりにハイレベルで、AIやロボットを使いこなすために必要な基本的な学力を要求していると思われる。

時代の大きな変化の中で学びが大きく変わろうとしています。埼玉の私立中学・高等学校は昨年の夏には、新しい学びの授業について講演会を開きました。このような勉強会を行うなどした、新しい時代に対応した教育を実践していく所存です。

## 埼玉県私学振興大会の開催

新型コロナウイルスの感染拡大により中止が続いていた埼玉県私学振興大会が、昨年は3年ぶりにさいたま市文化センターで、11月11日（金）に開催されました。今回は、コロナ感染防止に配慮し、会場の席を1つおきにあけて座っていた。形での開催となりましたが、それでも900人を超える多数の学校関係者及び保護者の皆様が一堂に会する、大変盛り上がった大会となりました。

各学校における運営費補助額の大幅な拡充、ICT環境の整備に対する補助の拡充強化、保護者負担の公私間格差是正の3つを柱とする大会決議の採択を行いました。埼玉私学連の嶋根副会長が読み上げ、出席者の満場の拍手で採択された決議文は、高柳副知事と中屋敷県議会議長にその場で手渡されました。

今や私学は、国公立学校と並んで公教育の一翼を担うばかりでなく、それぞれの建学の精神に基づく創意あふれる教育を実践し、子どもたちや保護者の皆様の多様なニーズに添えています。そしてその果たす役割は、このコロナの状況下においてさらに重要性を増しており、今後とも継続して私学振興を訴えていく必要があると思っております。

当日は、主催者である青木中高協会会長と國分埼玉私学保護会長の挨拶、ご来賓の方々のご挨拶等の後、



(表1) 第46回全国高等学校総合文化祭東京大会 埼玉県参加推薦校一覧

令和4年5月23日現在

部 門	参 加 校	部活動/生徒		学年	顧 問	備 考
開会式	川越東高校	囲碁将棋部	板垣 翔音	2年	鷲田 晃嘉	囲碁部門より
パレード	マーチング・バトントワーリングに同じ					
吹奏楽	山村国際高校	吹 奏 楽 部			清水 紀亨	
郷土芸能	武蔵越生高校	和 太 鼓 部			宗政 大輝	
マーチング・バトントワーリング	星野高校	マ ー チ ン グ バ ン ド 部			水城憲一郎	
	山村国際高校	バ ト ン ト ワ ー リ ン グ 部			百合野晴香	
美術・工芸	浦和学院高校	絵 画	米山 詩音	3年	玉掛 理人	
	本庄第一高校	絵 画	池田 涼華	3年	棚澤 寛	
書道	栄東高校		須永 聖七	3年	藤井 聡	
	星野高校		成瀬 乃朱	3年	加藤 沙織	
	本庄東高校		奥野 杏泉	3年	池田和嘉子	
写真	獨協埼玉高校		川田 青空	3年	林 靖子	
	埼玉栄高校		中村 知世	2年	高橋 朗	
放送	星野高校	アナウンス	山崎 響	3年	芳田 香織	
			河野 夏子	3年		
囲碁	川越東高校	囲碁将棋部	板垣 翔音	2年	鷲田 晃嘉	男子個人戦
	開智高等学校	囲碁将棋部	長野 優希	2年	川合 仁	女子個人戦
	川越東高等学校	囲碁将棋部	山中 健太	1年	鷲田 晃嘉	団体戦
	星野高等学校	囲 碁 部	田中 宗彰	3年	金田 理沙	
大竹 花歩			1年			
将棋	正智深谷高校	将 棋 部	永吉 琢磨	3年	及川 英男	男子個人戦
	春日部共栄高校	将 棋 部	森田 理世	1年	木村 柊太	女子個人戦
	正智深谷高等学校	将 棋 部	小山 夢真	2年	及川 英男	女子団体戦
			田島 翠	2年		
小倉百人一首かるた	浦和明の星女子高校	百人一首部	島根奈々香	3年	鈴木 康之	
			平沼 菖	3年		
			門田 桃佳	2年		
			信田ちはる	2年		
	東京農業大学第三高校	文 芸 百 人 一 首 部	松澤 奏	3年	東 真哉	
	星野高等学校	百人一首部	古屋翔太郎	3年	長尾けい子	
			廿樂 幸菜	3年		
吉田 茉央			3年			
新聞	川越東高校	新聞文芸部			飯嶋 大輔	
文芸	星野高校	(短 歌)	大友 結	3年	前川かおり	
		(俳 句)	秋池 花宥	3年		
協賛 軽音楽	立教新座高校	音 楽 部			青野 正之	

## 埼玉県高等学校総合文化祭

埼玉県教育委員会及び埼玉県高等学校文化連盟が主催する「第39回埼玉県高等学校総合文化祭開会式・第46回全国高等学校総合文化祭壮行会」が三年ぶりに令和四年六月八日に開催されました。表一は、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会への埼玉県参加推薦校の一覧を示したものです。コロナ禍で活動が制限される中を、努力を積み重ねてきた作品等です。その一部を紹介します。

第46回全国高等学校総合文化祭東京大会への推薦校四校の作品



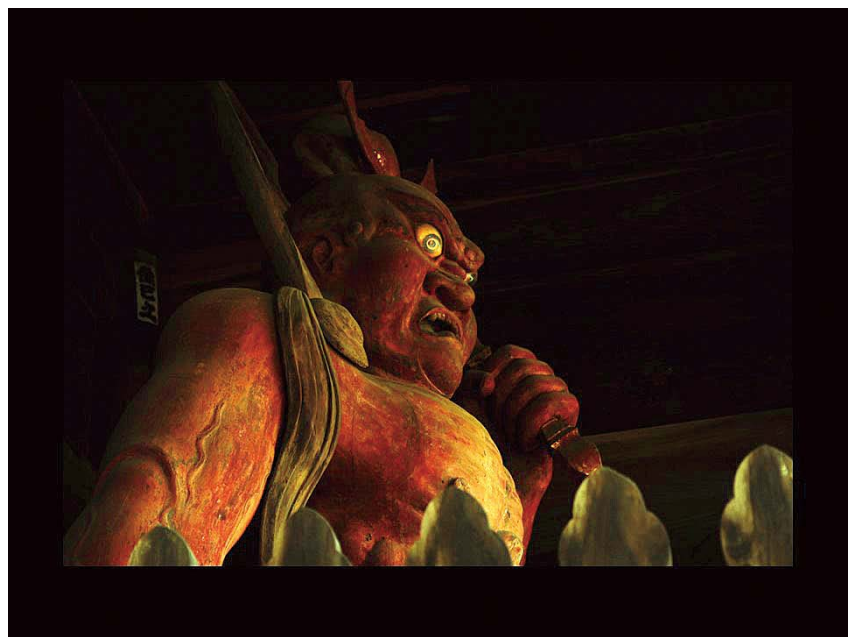
本庄第一高校 3年 池田 涼華  
「偶像崇拜」



浦和学院高校 3年 米山 詩音  
「光の一輪」



星野高校 3年 成瀬 乃朱  
「創 李白詩 發白馬」



獨協埼玉高校 3年 川田 青空  
「見守る怒りん坊」

## 「令和四年度埼玉県私学振興大会」を振り返って

埼玉県議会自由民主党議員団私学振興懇話会事務局長 須賀敬史

埼玉県議会自由民主党議員団私学振興懇話会の事務局長を務めております、蕨市選出の須賀敬史でございます。私学振興懇話会では、貴協会からいただきました要望を形にするべく力を尽くしてまいりますので、今後ともご指導賜りますようよろしくお願いいたしません。

私は地元の公立小学校・中学校で学び、高校はさいたま市立の高校へと進みました。現在の私が出来上がるまでを振り返ってみました。

### ―昭和な部活動―

小学4年生でソフトテニスを始めた私は、中学を経て何の迷いもなく高校でもソフトテニス部に入部。勉強よりも部活動に明け暮れた高校時代。校内でも1、2位を争うほど厳しく練習量の多い部活で先輩によく言われたのは「お前たちは10のうち3までしか考えてない。もっと自分で考えろ！」そこで『自ら考えるということの大切さ』を学んだ。

夏合宿での夜のミーティングでは、自分の不甲斐なさに涙した。先輩は言う、「2つの選択肢があれば辛い方を

選べ！」昭和のスポ根マンガのような高校時代を過ごしてきたが、この頃の体験が私の中の『簡単にあきらめない』という人としての骨格の一部になっていることは間違いない。

### ―情の深い友人―

高校時代、周りの誰にでもとても優しい友人がいた。クラスの中で2人1組のペアを作るような時には、ペアを作りそびれている人に必ず声をかけているような人だ。

ある日、一緒に駅前を歩いていると路上に並んでいた数台の自転車がドミノ倒しのように倒れた。私は、自分が倒したわけでもないし、起こすことに思春期特有の恥ずかしさを感じ、見て見ぬふりで通り過ぎようとした。でも、その友人は当たり前のように自転車を起こしに行った。友人につられて私も自転車を起こした。なんとも言えない感覚を覚えた。この友人との出会いが私の『議員としての、いや、人としての礎』になっていることは間違いない。

### ―公認会計士試験の挫折―

大学に入学した時の夢は公認会計士になることだった。大学2年の終わり

頃から会計士試験の予備校にも通い始め、いわゆるダブルスクールの毎日を送った。公認会計士国家試験は狭き門であり、大学卒業後も数年間を費やしたが合格は叶わなかった。予備校でできた友人はいわゆる一流大学に通っていた。その友人と話して感じていたのは、友人は全ての物事を論理的に考えているということだった。「難解な問題だつて論理立てて考えていくとちゃんと答えが見えてくるんだよね」と簡単そうに言われた時に、『簡単にあきらめない』を通してきた私は会計士をあきらめた。今思えば、自分も論理的に考えるようになるうと発想を転換しなかったことが悔やまれる。

### ―飲食店での経験―

会計士の夢をあきらめ家業の飲食業に就いた。とんかつ屋で調理や接客の毎日が始まった。高校時代にも少しだけ実家でアルバイトをしていたこともあり、また商人の血が流れているからなのかカウンター越しにお客さんと会話をすると楽しさを実感した。「人の話をよく聞く耳」がこの時に養われたのは間違いない。

### ―「気付き」に気づく―

大学生の頃だったか、母親に強い言葉をおつけたことがあった。会計士の試験もうまくいかず自分の身勝手さか

ら出た言葉だった。そのあと母がひとり泣いている姿を偶然見た。その時にハッとした。「母も悲しくて泣くんだ・・・」そんな当たり前のことに大学生になってやっと気づいた。友人には気を使って傷つけるようなことを言わないようにしていたのに、家族にはそんな気遣いをしていなかった自分に気づいた。この『気付き』に気づいてから家族に優しくなれたと思う。

### ―急がず休まず―

今、こうして議員として約16年間働いているのも全ての経験があったからで、何かひとつが欠けても今の私は出来上がっていないかと思えます。生徒の皆さんは、激動の時代を生きていきます。でも、皆さんには若さという武器があります。その武器がある限り急がず休まず走り続けてください。そして、いろいろなことに気づいてください。その『気付き』がきつと若さを卒業した後の生きる糧になりますから。

